

特定非営利活動法人
なかのドリーム



やさしいハートと曲線は聴診器、
”d”の文字は車椅子のモチーフ。
「医療と福祉のネットワーク」を表しています。

NAKANO dream

子どもたちの様子を少しご紹介します



ハロウィンまつり
たくさんおばけやかぼちゃの顔を描きました。



お正月遊び
みんなで福笑いに挑戦。



「NPO法人 なかのドリーム」 設立趣旨

- 新生児医療や高度集中医療の発達により、重症の子ども達を救命できるようになってきた一方で、医療的ケア（痰の吸引や経管栄養など）を必要とする重症心身障害児（者）が近年増加している。しかし地域の支援基盤は不足し、実態もあまり周知されていない。
- そこで地域のネットワークを活かし、重症心身障害児とその家族が安心して暮らせる地域社会をつくるための支援事業を行うこととした。



「NPO法人 なかのドリーム」 理念

- 医療と福祉の連携で、より安心して生活できる地域づくりをめざす。
- 個人としての尊厳を大切にして、障害児者と親の自立をめざす。

安心 + 自立 = 一人ひとりが生き生きと生活する
地域社会 ⇒ 「なかのドリーム」の名称

なかのドリームは
重い障害のある子と家族が
安心して暮らせる地域づくりを目指します

NAKANO dream



「なかの重度障害児親子の会 おでんくらぶ」発足

- 医療的ケアの必要な子どもを含む重度心身障害児と家族のサポートクラブとして2007年8月に発足。兄弟児も参加。
- 医師・看護師・ボランティアなどが活動に参加。
- 2010年度からは月1回（夏季休暇は数回）、
メープルガーデン（入所施設）、医師会館などで活動開始。
「親の交流の場」にもなっている。





「おでんくらぶ」 展開

- 年数回、医師や区職員など関係者との懇談会や学習会を開催。
- 一泊旅行や遠足も実現。
- 賛助金をつのり、福祉タクシーにより無料で車椅子を送迎。

参加者が増える。





見えてきた課題

- 医療的ケアが必要な子どもは親と別々の時間を持ちづらい。
- 親子で交流したり、他者と安心して過ごせる場が少ない。
- 情報を得たり、相談できるコーディネーターが曖昧。
- 疾患や成長に応じた社会保障制度と学齢期後も安心して暮らせる場所や生活支援のコーディネートの不足。

⇒ 保護者の育児・介護負担は大きく、孤立しがち



「NPO法人 なかのドリーム」

2015年4月設立

「おでんくらぶ」で培ってきた医師・看護師・ボランティア・保護者同士等の多様な地域のネットワークと「当事者が支援者であり、支援者が当事者である」という長所を利用して、さらに活動を発展させる。

- ・放課後等デイサービス & 児童発達支援事業 (2015年8月開所)
- ・定員5人の小規模多機能施設「おでんくらぶ」
- ・保護者同士の情報交換や気楽に相談にのれる拠点作り
- ・福祉車両での送迎

NAKANO dream



児童発達支援・放課後デイサービスおでんくらぶ

- 登録者数:17名
 - 児童発達支援(未就学児):1名
 - 放課後デイサービス(小・中・高の就学児:16名)
- 中野区12名・杉並区3名・渋谷区1名(対象は東京23区)
- 職員:管理者兼児童発達支援管理責任者 1名 医師 2名
看護師 5名 児童指導員 4名 指導員 5名
機能訓練士 3名(言語聴覚士・心理・理学療法士)



なかのドリーム役員紹介

理事長 高田功二(医師) 副理事長 佐藤浩子(社会福祉士)

理事 山田正興(医師) 宮地三千代(医師) 小池林太郎(医師)

松原豊(大学教授) 吉川恵子(社会福祉士)

福満美穂子(保護者) 岡田美奈子(保護者)

松長美紀(保護者) 東幸子(児童発達支援管理責任者)

監事 三輪操子(医師) 片山泰伸(社会福祉法)

NAKANO dream



「なかのドリーム」を応援してください！

- 寄付で応援

医療的ケアのある子ども達に必要な医療機器や設備を整える

ために、ご寄付をお願いします。

- 賛助会員として応援：賛助会費 年間 1口 1万円(何口でも)

- 職員(看護師・児童指導員・保育士・機能訓練

NAKANO dream



今後ともよろしく申し上げます



障害児通所支援事業



医療および福祉、
地域生活に関わる相談事業



保健、医療、福祉の
普及啓発および
ネットワーク構築活動

NAKANO dream